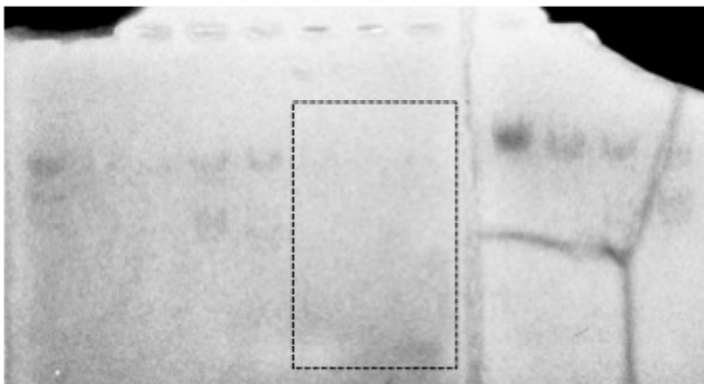
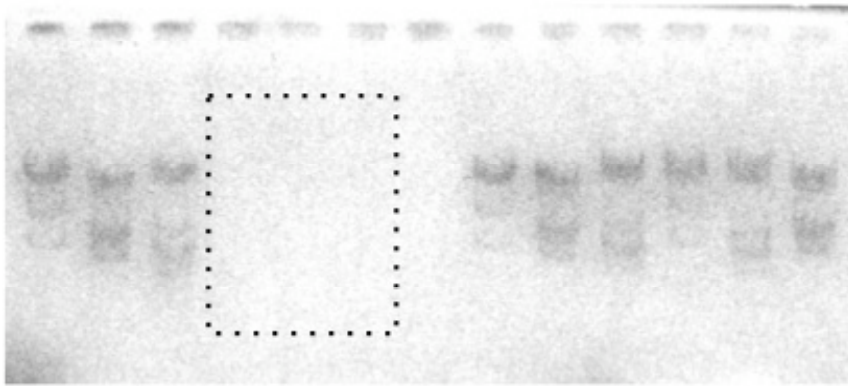


2008年 理科大好き実験

10月24日の実験は、遅くまでご苦労さまでした。でも大学院生がやれば、1時間で終わる実験なのです。生化学実験は、**正確に素早く**やるのが大切です。そのためには実験の手順を常に考えることが重要です。では、楽しく学んで下さい。

Fast Blast DNA stain 溶液(50倍希釈)で2分間染色



1: λ DNA/*Hind*III (中村)

2: λ DNA/*Hind*III

(穴の開いたゲルから回収)

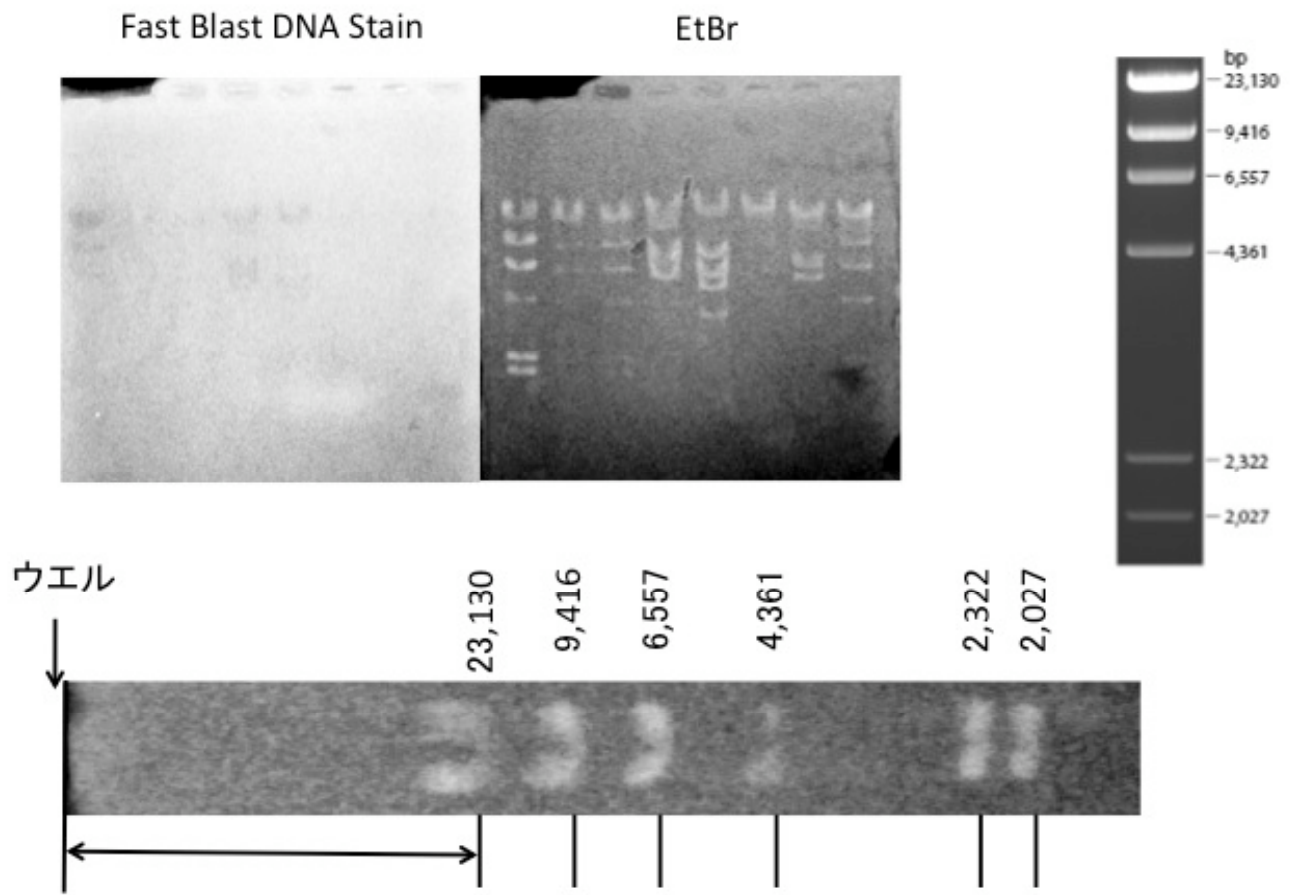
3: λ DNA (未処理中村)

1 2

3

写真は、皆さんが λ DNAを3種類の制限酵素で処理して、アガロース電気泳動法にかけた後で、アガロースゲルをFast Blast DNA Stain 溶液 (50倍希釈) で2分間染色したものです。下のゲルは、松戸に着くまでにバラバラになってしまいました。

各自が担当した部分はわかると思います。上のゲルの枠線で囲んである部分にはバンドがありませんね。思い当たる方は、どうしてか考えてみてください。下のゲルの枠線で囲んである部分にもバンドがないようですが、次ページの写真のエチジウムブロマイド (EtBr) で染色したゲルではバンドが見えております。



この図は、同じゲルを Fast Blast DNA Stain 溶液と EtBr 溶液で染色して得られた図です。EtBr溶液の方がはるかに感度の高いことが分かります。

では、実験のレポート課題です。

1. 下の写真は、今回、私が λ DNA を *Hind*III で切断してアガロースゲル電気泳動にかけて得られたパターンです。（右側のEtBr染色したゲルの左端のレーン）

物差しでウエルから各DNA断片までの長さを計り、片対数グラフに、長さを横軸に、DNA断片の大きさを縦軸にプロットして提出して下さい。

2. 今回の実験の感想、反省、疑問点など。特に難しかったこと、面白かったことをまとめて下さい。

レポートは、兼田先生へ提出して頂いて学内便で送って頂こうかな。

私のアドレスは、inakamur@faculty.chiba-u.jp です。（中村郁郎）